

脳卒中患者の夜間の呼吸状態安定化に向けた研究

看護学科（成人看護学）

鈴木 郁美

●連絡先 TEL：054-202-2943

キーワード

脳卒中, 脳血管障害, 睡眠呼吸障害, 再発予防, 非接触呼吸センサ



脳卒中患者は全国に112万人いると言われ再発も少なくありません。脳卒中の再発は初回に比べ重症化しやすく、脳卒中の再発予防への介入は看護の重要な項目として位置づけられています。脳卒中患者の看護に10年以上従事し、服薬自己管理や生活習慣病の改善に向けた取り組みなど、さまざまな再発予防に対する取り組みをおこなってきましたが、十分な結果であると言えず対応に苦慮してきました。

近年、夜間における低呼吸や無呼吸は、低酸素血症に伴う血圧の上昇が脳卒中の再発因子として指摘されています。臨床において患者の夜間の呼吸状態の把握は目視で観察する困難さに加え夜間の看護師のマンパワー不足から容易ではなく、脳卒中患者の夜間の呼吸状態の安定化に向けて、どのような看護介入が有効であるか十分に検討されていません。そこで、脳卒中患者の呼吸状態の安定化に向けた看護介入の有効性を検討する取り組みとして、夜間の呼吸状態を把握できるセンサを開発・有用性を確認する研究を行っています。

脳卒中患者の夜間の呼吸障害は急性期において指摘されていますが、慢性期では明らかとなっていません。そこで非接触・非拘束で体動から1回の呼吸数・換気量を測定できる呼吸センサを用い脳卒中患者の夜間の呼吸状態を測定したところ、慢性期の脳卒中患者においても問題を生じていることが明らかとなりました。さらに検討を重ね、夜間の呼吸状態の安定化に向けた脳卒中患者の看護に貢献できる取り組みを続けていきたいと考えています。

呼吸に問題のない安定している体動



無呼吸が生じた体動



呼吸に問題のある体動量の変化

療養ベッドのマットレスの下にセンサを設置し、体動量の変化から呼吸状態が把握できる。慢性期の脳卒中患者においても無呼吸が生じていた。

アピールポイント

脳卒中患者の看護やリハビリテーション看護に関する研究に取り組んでいます。